

安芸税務署長賞
「税について」

室戸市立佐喜浜中学校 三年
佐藤 麻衣

私たち中学生の立場から、一番身近な税金は消費税です。今、消費税は五パーセントですから百円の商品を買くと百五円です。外国の消費税と比べると、ちょっと安いのではないかと思います。ですが、歳入としては十兆円以上もの消費税が入っている事を知って、もし、消費税を仮に十二パーセントにすればもっと国にお金が入るのではないかと考えました。お店で買い物するとき百円の商品は百十二円になり、五パーセントの消費税の時より、七円も多く消費税を払うことになります。

そう考えた時、多く買い物をした場合、払う消費税も多くなることから、不況で節約思考が高まっているので、購買力は低下するのではないかと考えました。

そうなると、一回の買い物で入る税金は増えるけれど、無駄遣いをしなくなることから結局、変化がないか、それより少し増加するか減少するかなので、あまり効果がないように思い、増税も難しいなと思いました。

私たちは、税金をきちんと払っていますが私の家は両親が公務員なので税金から給料をもらって生活しています。このことを知ったのは、税の作文を書くことを両親に話した時に教えてもらいました。今まで給料がどこから出ているか考えた事がなかったのですが、税の事を知る良い機会になったと思います。

そういう事を考えていると、税金の無駄遣いは、とても腹立たしい事だと思います。

不必要なことによる税金の無駄遣いが無くなっていけば、社会保障や公共事業など、国民に必要なたくさんの事に税が役立てられることができるのです。

私は、中学三年生です。今年で義務教育を卒業することになります。教科書は無料で、きちんと勉強することができることに感謝しています。

今まで、税金について考えることがなかったのですが、作文を通して、教育を受けられる事のすばらしさ、消費税の奥深さを感じることができました。

税金を納めることは国民の義務ですが、納税の大切さを学ぶことも国民にとって必要なことではないでしょうか。